F－2　東北地区居住者の老化現象の解析について（第2報）

宮城学院女大　後藤ひろへ　○吉田清一郎　宮城教育大　大泉ふさ
盛岡短大　斉藤寛　米沢短大　横尾章　東北女大　葛西文造

目的　前報と同じ対象者について、機能上（6項目）外見老化（5項目）及び精神意識老化（13項目）を3段階法で、評点したものについてその解析方法を検討した。

方法　評点法の解析には種々の方法があるが、Fisher の解析法を採用し、全標本を用いて、各人の老化度および各項目平均点を求め、各方面から検討した。

結果　1．Fisher の代表値を見ると、總合老化（24項目全部による。）外見老化、および精神意識老化で、ほぼ0.5となり、3段階の評点が適切であったと理解されるが、機能老化は0.87となり、評点にひずみが生じている。

2．男女の老化度を比較すると、すべて危険率1%以下で有意が認められ、すべて老化度は女性の方が高い。

3．年令増加にともない「視力」「就寝」「皮膚」「背椎のわん曲」「目のくぼみ」「歯」「いらいら」「役割（内）」「淋しさ」の諸項目の平均点は増加し、「物忘れ」は逆に減少する傾向が認められる。なおこの傾向は性別ごとにみた場合著化する。